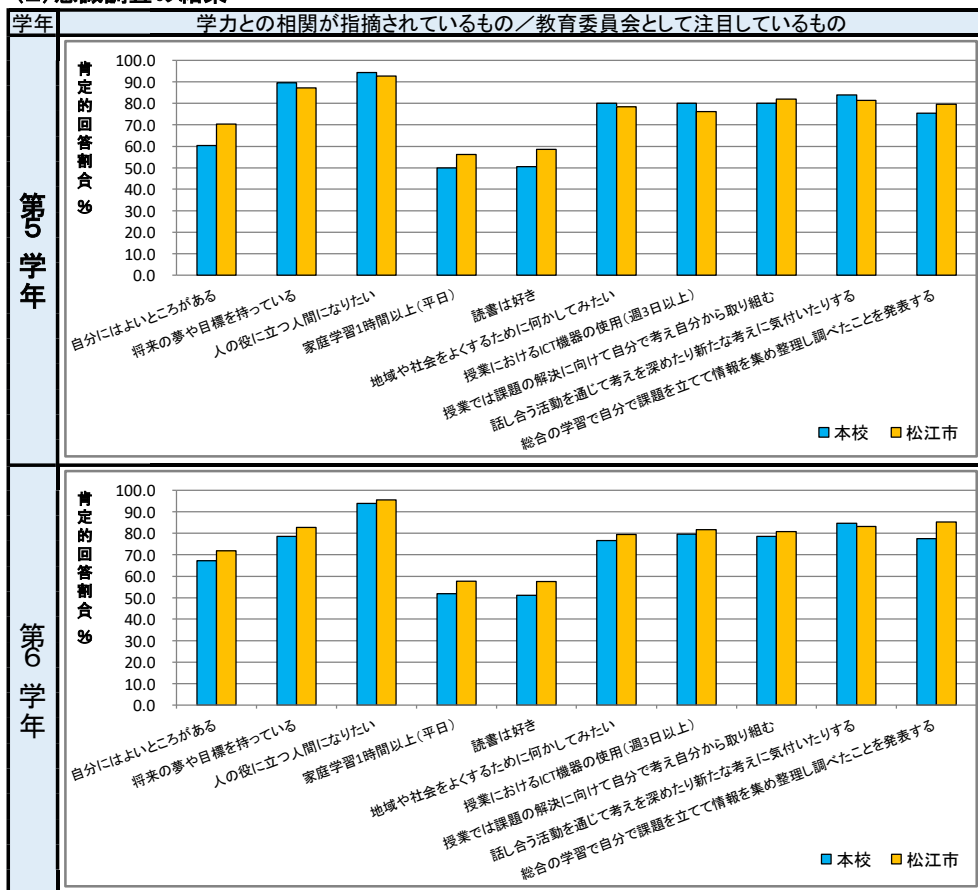


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(→)
第5学年	国語	<p><b>成果</b></p> <p>○「知識・技能」の正答率が推定全国値よりは低いが、市区町村よりも約1%上回っており、これは校内の日々の取組(漢字会・毎日の課題)の成果が表れている。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」ことをねらいとした問題の正答率は95.3%と高いため、「話すこと」「聞くこと」の力がつきつつある。</p> <p><b>課題</b></p> <p>●教科総合正答率は推定全国値と比較して下回ってしまい、達成率は44.3%と低い。 ●「書くこと」「読むこと」の項目の正答率が市区町村を下回っており、課題がある。 ●「説明文を読む」「意見文を書く」の内容が市区町村の正答率を下回っており、課題がある。</p>	<p>・国語だけに限らず、普段の授業や生活の中で、自分の意見を自分の言葉で伝えようしたり、自分の考えをもって正しく書いたりする習慣をつける。</p> <p>・学習の定着をめざし、テスト前だけでなく日ごろからコツコツ学習していく。また、そのために学習方法や学習したことに対する評価などを丁寧に示し、こどもの意欲につなげていく。</p>
	算数	<p><b>成果</b></p> <p>○正答率が市区町村より「知識・技能」が6%、「思考・判断・表現」が7%も上回っており、これは校内の日々の取組(計算会・毎日の課題)の成果が表れている。 ○「分数のたし算・ひき算」の問題の正答率が59.0%と、推定全国値と市区町村の正答率を上回っており、分数の計算を正確に解くことができるようになりつつある。</p> <p><b>課題</b></p> <p>●教科総合正答率は推定全国値と比較して下回ってしまい、達成率は58.5%と低い。 ●「数と計算」の領域の正答率が53.2%と、推定全国値と市区町村の正答率を下回っており、課題がある。 ●「小数のかけ算・わり算」の内容がほとんどの問題で低く、課題である。</p>	<p>・授業だけでなく、5分や10分でも毎日計算をし(朝自習や宿題)、反復練習をすることで正確に計算できる力を身につける。</p> <p>・文章題など問題の意味を理解し、聞かれていることに対して答えられるように、授業でも文章題を多く解く。</p> <p>・5年生だけでなく、下の学年の学習内容をしっかりと身につけ、忘れないように定着を図る。</p>
第6学年	国語	<p><b>成果</b></p> <p>○「知識・技能」の正答率が推定全国値よりは低いが、市区町村よりも約1%上回っており、これは校内の日々の取組(漢字会・毎日の課題)の成果が表れている。 ○「情報の扱い方に関する事項」の領域の正答率は60.2%と市区町村の正答率を上回っており、力がつきつつある。</p> <p><b>課題</b></p> <p>●教科総合正答率は推定全国値と比較して下回ってしまい、達成率は36.7%と低い。 ●「書くこと」「読むこと」の項目の正答率が市区町村を下回っており、課題がある。 ●「文と文との接続の関係を理解している」ことをねらいとした問題の正答率が2%ととても低く、課題がある。</p>	<p>・文章全体の内容をとらえ、文章の内容や構成をつかむことができるよう授業でも力を入れる。</p> <p>・長い文章もあきらめず、自分で読み取ろうとするよう普段から長い文章に触れたり、自分で読んで答える練習をしたりする。</p> <p>・自分の気持ちや考えを自分なりに表現できるよう国語の授業だけでなく普段の生活から力を入れる。</p>
	算数	<p><b>成果</b></p> <p>○「拡大図と縮図」の内容の問題の正答率が比較的高く、推定全国値や市区町村の正答率を上回っていた問題もあった。これは、研究職員会などで「図形」単元における系統性を考えたり、単元構成を考えたりして実践した成果である。 ○校内・校外問わず、研究授業を行い、授業改善を行ったことはよかった。</p> <p><b>課題</b></p> <p>●教科総合正答率は推定全国値と比較して下回ってしまい、達成率は50.0%と低い。 ●「変化と関係」の領域の正答率は37.8%と、推定全国値と市区町村の正答率を下回っており、課題がある。 ●「小数のかけ算・わり算」の内容がほとんどの問題で低く、課題である。</p>	<p>・既習内容を忘れていたり、既習内容が分からなくなったりしないよう授業の最初の数分や授業以外(朝自習や宿題)で反復練習をする。</p> <p>・その単元でしか扱わない用語や内容については繰り返し練習し、力をつける。</p>

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について  
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

○「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」など夢や希望をもって生活している児童が多いため、今後も児童のよさやがんばりをたくさんほめ、意欲をもって学習や生活ができるようにする。

●家庭学習時間が少なく、読書に対して消極的な意見が多いため、家庭学習時間や自学を充実させたり、意欲的に本と触れ合えるような活動を取り入れたりする。

【第6学年】

○「人の役に立つ人間になりたい」と将来を見据えて自分の夢や希望をもって生活している児童が多い。今後も話し合いや発表、キャリアパスポートなどを活用したキャリア教育の充実を継続していく。

●5年生と同様家庭学習時間が少なく、読書に対して消極的な意見が多い。中学校に向けて自分で自分のために学習していけるよう学習方法について力を入れて指導する。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	106	名
第6学年	98	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示